

要 望 書

長野県松本平広域公園体育館の
全 面 改 築 に つ い て

公益財団法人長野県スポーツ協会
会 長 阿 部 守 一 様

中信4市スポーツ協会・体育協会協議会

会 長 一般財団法人松本市スポーツ協会会長 臥雲 義尚

副会長 大町市体育協会会長 島田 剛志

副会長 特定非営利活動法人塩尻市体育協会会長 丸山 智之

副会長 特定非営利活動法人安曇野市体育協会会長 赤羽 高明

秋涼の候、貴職におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より県民のスポーツ振興に対しましてご尽力を賜り、深く感謝を申し上げます。

さて、長野県松本平広域公園体育館は昭和53年のやまびこ国体に合わせ整備されて以来、広範な長野県において各地域から均等な時間で短時間に参集できる施設として県大会等全県民のスポーツ拠点施設として広く利用されています。加えて北信越・関東甲信越・中部日本大会等のブロック大会、全国規模のスポーツ大会を開催する施設としても利用されております。

一方、立地的好条件からこの体育館の利用を希望する団体は多く、希望日が重複するため、この体育館の確保ができない場合には、中信4市が市民のために設置している各市の体育館に希望が移り、県大会以上の大会が優先されるため、地域住民の利用に支障が出ているところです。

併せまして、障がい者及び高齢者並びに幼児を抱えた県民等が2階の観客席に行くためのエレベーターが無い等、ユニバーサル化にも取り残されております。

長野県が定めた第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の開催基本方針では、より多くの県民がそれぞれの関心や適性等に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造を謳い、また、実施目標においては、健康長寿世界一の信州の実現を目

指す事、子どもたちが夢や希望を未来へとつなぐことができる大会とする事、障がいの有無にかかわらずスポーツを通じた交流を拡大するなど誰にでも「居場所」と「出番」があり多様性を尊重する共生社会づくりを後押しする大会とする事、少子高齢化社会を迎え将来にわたり安全で適正なスポーツ環境を提供するとともに、誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進する大会とする事、長野県の誇れる魅力を県民一人ひとりが見つめ直し県内外に発信する事、全国から訪れる数多くの来県者を温かいおもてなしの心で迎え、一人でも多くの方に長野県のファンとなっただけの大会とする事を掲げています。そこで、総合開閉会式主会場である陸上競技場の雨天等の補助会場として、十分な広さと誰もが使い易いユニバーサルデザインにより建設された体育館が隣接することは、開催基本方針及び実施目標を達成し、成功に向けての重要な要件になります。加えまして長野県民が新たに整備された体育館で誇りをもっておもてなしを行う事ができる環境を整える事は、大会後に県民への最高の遺産の一つとなる事と思われます。

また、ブロック大会、全国大会、国際競技会、プロスポーツ等には多くの県外者が長野県を訪れるため、この体育館の全面改築は宿泊・飲食等による経済対策として、また長野県信州まつもと空港の利用者拡大の具体的な施策ともなります。

併せまして、松本平広域公園体育館の拡張整備は、地域住民による各市の体育館利用の機会を増やし、国が地方自治体に求めるスポーツ実施率の向上に大きく寄与するものと確信いたします。

よって、長野県スポーツ協会におかれましては、長野県スポーツ界発展のためにも、貴協会加盟団体の要望をとりまとめ、長野県松本平広域公園内の体育館を、石川県が設置するいしかわ総合スポーツセンター規模[メインアリーナ：バスケットボール4面、サブアリーナ：2面]及びその内容以上で、ユニバーサルデザインを重視した全面改築を、長野県及び長野県教育委員会に働きかけていただきますよう強く要望を申しあげます。

令和2年9月23日

一般財団法人松本市スポーツ協会会長 臥雲 義尚 印

大町市体育協会会長 島田 剛志 印

特定非営利活動法人塩尻市体育協会会長 丸山 智之 印

特定非営利活動法人安曇野市体育協会会長 赤羽 高明 印